須崎のためにガンバルッ！ その11

すさき元気奮闘記

ぼっけん ふんとう

茨城県から地域おこし協力隊として赴任し、様々な課題に挑戦した長原隊員。上分地区の魅力を広く発信する活動を行った和田集落支援員。二人は3月で任期を満了し、新たな旅立ちを迎えます。

地域おこし協力隊 長原隊員

「須崎で何ができるか？」「何があるのか？」「どんな人たちなのだろう？」

私の仕事は須崎を知ることから始まり、猪での地域おこし、鯛の加工品の生産、安和の文化祭のサポート、ビワの管理、水泳教室などに取り組みました。数々のイベントにも携わりました。

地域おこし協力隊　長原隊員
須崎の皆さん、3年間ありがとうございました

生涯大切にしたい、ぼっけんの仲間たち

活動の中で、地域で活躍する20代30代の若者世代の少なさを感じていたところ、「吾桑の絆づくり（特に若者）」を吾桑の松坂集落支援員と一緒に取り組むことになりました。そして、地元須崎を元気にしたいという仲間が集まり、吾桑の若者グループ BOKKENT（ぼっけん）が誕生。夜桜キャンドルナイトの企画や、地域イベントに参加してきました。

この3年間の私の仕事は「きっかけをつくること」だったと言えます。出会うことがない人が出会う、考えもしなかったことを考える、そして行動する。私自身が、そんな初めの一歩になれた仕事でした。

私は須崎で生活し、須崎が好きになりました。みなさんの温かさに感謝しています。須崎での時間を経て、次は子どもたちの「初めの一歩」になりたいと考えるようになりました。現在、小学校の先生を目指し勉強しています。須崎の皆さん、また、お会いしましょう。

猪肉の加工にも挑戦

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

上分地区　和田集落支援員

少子高齢化が叫ばれている昨今、どの地区にいてもおそらく人口の減少を嘆く方がいるのですが、それに対しての特効薬がないのが現状です。

そんな中、支援員として配属された自分に何ができるのだろうかと考えた結論が「その地区の方々に故郷を想う意識を再確認してもらう」ということでした。故郷の魅力を再確認してもらうためにブログや映像を駆使して、第三者の視点から見た上分地区を、地区内外に伝えることを中心に活動してきました。

それでも直接地域の皆さんの力になれたわけでもなく、「このままで良いのか？自分は役に立てているのか？」という問いに立ち止まることが多々ありました。

ただ、この2年間で感じたのは上分地区が素晴らしい所で、今後も自分にとっての故郷であると胸を張って言えることです。地域の方々のつながりや温かさは何物にも代えがたい魅力だと思います。

支援員という肩書は関係なく、故郷を想う気持ちさえあれば、誰だって地域を良くしていけます。これからは、自分自身がそんな人材の一人となって仲間を増やしていきたいです。

折り紙や水鉄砲を使った昔遊びで、年配の方と子どもたちが交流

和田集落支援員（一番上）と上分公民館と地域の皆さん ▶

元気創造課　元気創造係
☎42・3951